

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0036号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年5月30日

# 米中に強烈な一撃・NYで石原節完全復活

米国で石原節が完全復活した。慰安婦問題から核保有まで国会議員が口ごもる直言が相次いで飛び出した。相変わらず脅し文句は痛快無比である。中でも怒濤の中共批判は胸がすく思いだ。



「戦争中に軍がそういう女性たちを調達した事実はまったくありません。ただ、便乗して軍にそういうものを提供することを商売にした人間はいましたな」

予てより小紙は「従軍慰安婦など存在しない、いたのは追軍売春婦だ」との主張を展開してきたが、我が意を得たりの念を強くした。慰安婦に関する知識が乏しく、単細胞の米国人を納得させるには、長々と歴史講釈を述べるよりストレートな言い方がベターである。米国でマイク決議案が迷走する今こそ日本の国会議員がカウンタースパンチを浴びせる好機である。そういう意味で、知事の発言はまさにグッドタイミングであったと

言える。

米国東部時間の五月十七日石原知事は、ニューヨークでの講演で前述の発言をした。都知事の一撃は慰安婦問題に留まらず、弱腰なヒル次官補にも及んだ。

**六ヶ国協議に見る米国の限界**  
「北朝鮮の核を巡る六ヶ国協議で、米国の対応は曖昧であり、我々はアメリカを信用できなくなっている。北朝鮮と中国はともややこしい関係である。アメリカの外交力では簡単には捌けないだろう。」

曖昧路線イコール柔軟姿勢に対する痛烈な批判である。高濃縮ウランを棚上げにした米国のダブルスタンダードに苛立ちを隠さず米国の外交力の限界を指摘している。またヒル次官補が支那の頭越しに北朝鮮と交渉したことが混乱に拍車をかけたとも指摘している。事実、米国は支那と北朝鮮の舵取りで大きな過ちを犯している。知事は講演後の記者会見で「北朝鮮は約束を履行していない。米国は手玉にとられている。米国は国力の限界を感じているのではないだろうか」と語っている。イランに対して武力行使も視野に入れている米国にとって、北朝鮮には容易に正面突破できないもどかしさがある。軍事力をバックにしないと米国の外交は迫力を欠いてしま

うことは、万人の認めることだが、ここまでハッキリと口にするとは痛快無比である。

**支那の混乱と台湾・尖閣有事**  
「二〇一一年中国バブル崩壊説」が一部の識者の間で囁かれているが、石原知事と英国エコノミスト誌のエモット編集長は、支那の経済は北京五輪の直後に崩壊するとの見方をしている。北京五輪という祭りの後で経済が破綻となると、支那共産党は政権の命運を賭けて台湾や尖閣侵攻にできる可能性が大となる。支那の暴挙が現実となった時「米国がどれだけ日本の防衛に責任をもってくれるのか極めて疑問だ」と知事は日米同盟の崩壊を危惧している。日本が軍事的危機に晒された時、いつまでもアメリカが守ってくれ

ると思ったら大間違いである。米国を信じている人は、十一年前の出来事を思い出ししていただきたい。  
一九九六年、モンデール駐日大使は「尖閣諸島の紛争で日米安保は発動されない」と明言して物議を醸したことがある。石原知事を始めとする真の日本の政治家は激高してモンデール発言を猛批判した。その結果、モンデールは更迭されたが、当時のクリントン民主党政権は、一年半の間新任大使の就任を拒絶し続けたことがある。米国はその後

「尖閣は日米安保の適用範囲である」と繰り返し明言しているが、米国に対する不信任感が完全に払拭したわけではない。

都知事の言うように、五輪という宴の後に支那国内に混乱が起きれば、支那共産党軍が尖閣や台湾に侵攻することが俄かに現実味を帯びてくる。特に台湾においてはその危険性は大きいと思うが、中共軍が台湾侵攻に踏み切るか否かは識者の間では意見が分かれている。各々の「対支那観」が百八十度異なるからである。支那に対して友好的な国会議員や識者は、支那が台湾侵攻を「解放」と位置付けていることを再認識しなければならぬ。侵略ではなく解放と嘯く支那共産党の「衣の下」を見落としてはならない。

「七千万人を殺してはばからぬ毛沢東を国父と仰ぐ共産主義政権に、三千人のイラク兵の死亡が政権を揺るがす米國は対抗できない。仮に米中戦争となつた場合、アメリカは絶対に中国に負ける」  
人間の生命に対する価値観など全く持っていない支那は何の憂いもなく戦争を始めることができる。そして戦火が拡大すればするほど、生命の価値にこだわる米国は支那に勝てないだろう。頼みの綱の

米国が支那に対抗できないとなると、日本の進むべき道、取るべき手段は何なのか、知事が明確な答を出している。**日本核武装と日米同盟の行方**  
ニューヨークの講演で知事は、周辺地域有事の際に米国が本気で日本の防衛を考えるか否かを危惧したうえで「駄目なら駄目で日本は自分で自分を守る努力をします。それはアメリカが懸念している核保有につながるかも知れませんね」と述べている。この発言は、米国が最も耳にたくないパンチ力のある言葉である。

今後の日米同盟の行方を占う意味で対支那認識は実に重要なフアクターとなる。仮にポスト・ブッシュが民主党政政権になった時、日米同盟は黄昏時を迎えることとなるだろう。米民主党は通商分野でのスタンスは反支那であるが、軍事面では明らかに及び腰であり、尖閣・台湾に暗雲が立ち籠めても二の足を踏むだろう。支那からすれば、その隙に付け込むことは容易いことである。これは極めて現実に近い仮定である。

支那に阿る政治家や評論家、マスコミ関係者は、「支那は七千万人を殺してはばからない毛沢東を国父として仰ぐ共產主義政権である」という石原都知事の核心をついた直言を耳を澄まして聞くべきである。支那を平和主義国家とする妄想は排除して「平然と七千万人を殺す危険国家」であることを認識しなければならぬ。未だに支那に甘い幻想を抱く日本国民は直ちに甘すぎる幻想を払拭しなければならぬ。支那が牙を剥く時はすぐそこまで来ているのだから・・・。

編集人・戸出蒼流

お詫び  
前号に続いて発行が遅れてしまいましたことを心からお詫び申し上げます。

## 呆れた支那人の民度の低さ!! 弾丸列車を走らせる前に民を再教育しろ

日本から輸入した新幹線を弾丸列車と呼び、営業を開始してから一ヶ月が経過したそのために検査場に戻ってきたところ、水道のセンサー式蛇口や緊急脱出用のハンマー、便座の温度調整つまみなどが取り外されていて、約百人の作業員たちは頭を抱えたという。この列車は誰でも乗れるようなものではなく、それなりの富裕層に限られている。それにも関わらずこの有様では支那人全体の民度の低さは、韓国人に勝るとも劣らないと断言できる。こんな国が新幹線を走らせるなど百年早い、愚民共を再教育する方が先決ではないのか、もつとも教育する側がモラルの欠片も持ち合わせていない破廉恥な連中ばかりだから、不可能な話だろう。

日本から輸入した新幹線を弾丸列車と呼び、営業を開始してから一ヶ月が経過したそのために検査場に戻ってきたところ、水道のセンサー式蛇口や緊急脱出用のハンマー、便座の温度調整つまみなどが取り外されていて、約百人の作業員たちは頭を抱えたという。この列車は誰でも乗れるようなものではなく、それなりの富裕層に限られている。それにも関わらずこの有様では支那人全体の民度の低さは、韓国人に勝るとも劣らないと断言できる。こんな国が新幹線を走らせるなど百年早い、愚民共を再教育する方が先決ではないのか、もつとも教育する側がモラルの欠片も持ち合わせていない破廉恥な連中ばかりだから、不可能な話だろう。

今回盗まれたものは車内のトイレの部品などが、次はもっと重要な部品が盗まれて安全運行に支障をきたし、事故が起きる危険性は最大である。支那政府は国民に、弾丸列車が日本の新幹線を導入したものだとは知らせず、あたかも自前のものと言わんばかりである。ただし、それは事故が起きなければの話であって事故が起これば、日本の新幹線を導入したものと公表して、得意の謝罪や賠償を求め

てくるであろう。世界から伝わる支那がらみの情報には、呆れ返ったり、思わず吹き出したりするニュースが多いが、その最たるものがオリンピック開催である。本場に五輪をやるつもりなのだろうか？ 今からでも遅くない、開催を断念して「特定アジア大運動会」でも開いて偽造した金メダルの奪い合いでもやるのが分相応というも



五月二十八日午後0時半頃、赤坂の議員宿舎の自室で松岡利勝農相が首を吊っているのを秘書らが見つけ一十九番通報した。救急隊員らが駆けつけた時には既に心肺停止状態で、搬送先の慶応病院で同日午後二時死亡が確認された。農相の自殺に関し「ひぐらし」関係者から多数のメールが届いた。

「様々な疑惑が有る中、何の説明責任も果たさずに人間として最悪の行為である『自殺』という方法で逃げた卑怯者としか思わない。ありもしない事務所費や光熱水費を計上した会計と同様に人生も『架空』だったのだろうか。『ナントカ還元水』は、どうやら脳に良くない水だったよつだ」(取材部長・加藤)

「再チャレンジを謳う内閣から自殺者が出たことを皮肉に思う。死をもって責任を取ろうとしたのか、逃げようとしたのか知る由もないが、遺書に解決の糸口が残されていることを祈る」(編集部・吉田)

「死をもつて幕引きを図ったならば政治家として無責任過ぎる。政治家に限らず責任の取り方を自殺で済ますことには同情の余地がない」(ひぐらし友の会・秋山)

色々な意見がある中、編集人からひと言「浜の真砂は尽きるとも、世に政治家の疑惑は尽きまじ」

### 永田町に衝撃、松岡農相自殺

民度の低い国民、水質汚濁、大気汚染、毒野菜、化学物質入り食品、毒薬、産業廃棄物入り又イグルミなど何一つ良い材料はないのだから、潔く五輪開催は諦めるべきだ。こんなことでは、外国からの選手や観光客は支那人入国を躊躇うようになる。

支那にはこれからも呆れ返れ返るようなネタを提供して全人類を爆笑させてくれることを期待する。

編集人